# 東北大学病院総合防災訓練を実施しました（2012/11/09）

場所：東北大学病院（宮城県仙台市）
テーマ：直下型大地震の発生を想定した情報収集及び多数傷病者受け入れ訓練

11 月９日（金）13:00-16:00 東北大学病院にて総合防災訓練が実施されました。今回の訓練は、東北大学病院災害対策委員会が企画開催し、災害科学国際研究所からは委員の一人である江川新一教授が対策本部評価者として参加し、災害対策本部設置と活動に関する評価を行いました。平日午後に仙台市内直下・長町―利府断層を震源とする震度６強の地震発生を想定。停電が広範囲に起こり、大学病院は非常電源への切り替え、内線 PHS および院内 LAN が利用可能な想定です。院内は建物・設備に軽微な被害はあるものの、入院患者などの人的被害なし、仙台市および近郊で死者 1000 名以上、負傷者 2000 名以上が想定される状況を仮定しました。

災害対策本部における大きな評価目標としては、①本部の立ち上げ、②病院内外の被害情報収集、③30 分以内の災害レベルの決定と公表周知、④60 分以内の災害対策会議招集、⑤会議の報告資料作成、⑥病院内への情報発信、マスコミ対応、⑦多数傷病者受け入れ態勢と各エリアとの連携があげられ、事前に作成されたシナリオ（プレーヤーは知らされず）にもとづいて刻々と変化する状況に対応する訓練がなされました。

また、大学病院の救命救急センターと救急入口、廊下などを用いてトリアージエリアが作成され、多数の傷病者の受付と迅速な重症度決定、トリアージタグに基づいた移送、治療の訓練が行われました。各エリアでは、起ち上げ、チームビルディング、診療録の運用、診療番号の付与、カテゴリー変更時の対応、傷病者への声掛け、災害対策本部との連携、家族対応などが評価されました。また、応援職員やボランティアに対応する応援センターも起ち上げられ、応援要員の受付、登録、派遣に関する訓練が行われました。

東日本大震災から１年９か月たっていますが、生々しく当時の状況が思い出され、災害対策本部、トリアージエリア、応援センターともに参加者全員が真剣な表情で訓練にとりくんでいました。今回の訓練で得られた教訓をもとに、より実践的な訓練が繰り返される予定です。

災害対策本部の様子

トリアージエリアの様子

文責：江川新一（災害医学研究部門）、写真：阿部喜子（救命救急センター）